

■「効果の見える治水事業」  
香川県 見目中川(土庄町)の砂防事業  
『見目中川通常砂防工事』

香川県小豆総合事務所次長 やまもと よしあき  
山本 芳明



【見目中川の被災】

平成16年10月20日、台風23号による豪雨の影響により小豆郡土庄町見目において、土石流が発生し、下流の人家・耕作地等に土砂氾濫が及び災害となりました。幸い人的被害はなかったものの、土石流により半壊家屋2戸、家屋、公共施設及び田畑への土砂の流入などの被害が発生しました。

【工事の特色】

災害前の地形では、溪流としての機能(水路)が無く山腹及び田畑となっており、なぜ土石流が発生したのか不思議な地形となっていました。

しかし、工事の施工により地山を掘削したところ、上流域では地下水が出ないが、下流域では地下水が豊富に出てきて、通常の谷筋での流路工事と同じ様になりました。地元の年配の方に聞くと昔は谷筋であったそうです。

流路工の施工にあたっては、田畑の真真中に水路を作ることににより、用水の取水口をどこから取り入れるかが苦労をしました。

【おわりに】

小豆島では過去にも大きな土砂災害を経験しており、被害を少しでも軽減するためにこれまで砂防ダム等のハード整備を進めてきました。しかし今回の見目中川の様に溪流と見えない他の箇所においても土石流が発生する危険性がまだ隠れているかもしれません。すべての箇所を整備するためには多くの時間と費用が必要となることから、危険箇所の周知、避難警戒体制の整備等ソフト面の対策も充実させるなど、ハード・ソフト両面から土砂災害に取り組んでいきたいと考えております。

《見目中川の事業実施内容》

- 整備施設
  - ・えん堤工:1基(堤高:H=8.0m、堤長:L=121.0m)
  - ・溪流保全工:L=100m
- 効果量:
  - ・貯砂量:1,726 m<sup>3</sup>   ・調節量:759 m<sup>3</sup>
- ◎保全対象:人家12戸、小学校1箇所、公民館1棟  
                  県道0.05km、町道0.03km
- 事業期間:平成17・18年 えん堤工  
                  平成19年 溪流保全工



見目中川 崩壊状況



北浦幼稚園 被災状況



見目中川 完成写真

談話室

「安心安全のまちづくり」

土庄町長 おかだ こうへい  
岡田 公平



土庄町は、東洋の地中海、瀬戸内海国立公園の中にあり、明治41年、ヨーロッパ地中海から初めて持ち込まれたオリーブの木がわが国で唯一この小豆島だけに根付いたように、四季を通じて温和な気候に恵まれています。

地形は、島内に瀬戸内海最高峰をいただくことから急傾斜地が多く、主として沖積地や山間の緩傾斜地に集落を形成しています。この急峻な山岳地形に加え、約90kmに及ぶ複雑な海岸線と周辺島嶼部の織りなす多島美の風光に恵まれ、町域に多くの自然公園特別地域の点在する優れた自然環境を有しています。

また、この温和で優美な風光のもと、郷土作家壺井栄先生が名作「二十四の瞳」を始めとする作品群の中で、鮮やかに描き出した素朴で細やかな人情と、古来から続く上方文化とのふれあいの中で洗練されてきた豊かな文化性、そして厳しい離島の経済環境の中で培われた鮮烈な進取の気風、これらが渾然一体となって独特の優れた町民性を形成し、それが「まちの心」となって未来への夢を育てています。

一方、近年の地球温暖化による異常気象の影響からか、想像を絶する豪雨が何時何処で発生するのか分からなく、一旦発生すると地形が急峻なために、たちまち土石流となって下流の民家及び農地などに甚大な被害を及ぼす恐れがあります。

平成16年度には、6月の台風4号をはじめ10月の23号まで10個の台風が日本列島に襲来しました。これは、戦後もっとも多い数であったそうで、土砂災害や河川の氾濫、高潮などにより県内で19人の方が犠牲となりました。10月20日の台風23号では、土砂災害が東讃を中心に多発し、当見目地区においても地区の背後の四方指では、最大時間雨量52mmという豪雨に見舞われ、土砂崩れで山林、農地、民家をまきこみ下流域の小学校校庭まで土砂が入り込みました。幸いにも犠牲者は、でませんでした。土庄町としては、これをふまえ、砂防ダムの建設を国、県に要望し、災害の防止に努めるとともに、万一来に備え、この地区も含めた町内各地に避難所を指定しました。

災害時には、防災情報の円滑な伝達による被害の軽減と災害時の孤立防止を図る手立てが必要です。このため町では、全世帯に個別受信機を置く防災行政無線を整備し、安全の確保を図るほか、常に防災情報の集積と分析を行い地域防災計画の改定充実に取り組んでいこうと考えています。



地元消防団による防災訓練の様子



地域住民を交えた救命講習